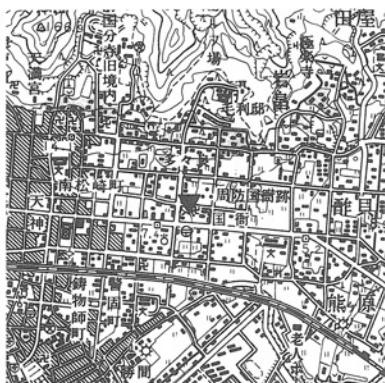


2003年出土の木簡



(防 府)

山口・周防国府跡

すおうじくふ

東では、国府政庁設置以前から存在していた自然河川SD八二一〇〇の西岸を検出した。周辺の調査結果を勘案すると、政庁の西は緩やかな谷状地形を呈し、小河川が発達していたと考えられる。

1 所在地 山口県防府市国衙二丁目
2 調査期間 第一三五次調査 二〇〇一年(平14)三月
3 発掘機関 防府市教育委員会
4 調査担当者 原田光朗
5 遺跡の種類 官衙跡

6 遺跡の年代 古代～中世

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

調査地は史跡指定地「周防国衙・一町域」の南西隅に西接する水田であり、マンショノ建設予定地の建物部分約三一〇m²を調査対象

地とした。

検出した主な遺構は、掘立柱建物一棟、掘立柱塙一條、井戸一基、自然河川などである。遺構の時期は、

木簡の出土した井戸SE八二九〇と掘立柱塙が一五世纪初頭、掘立柱建物が一五世纪前半頃である。調査区

8 木簡の釈文・内容

(1) 「(符籙)○急□如律令」

・「いた。」

137×28×3 011

木簡は、中央やや上に木釘が打ち込まれた状態で出土した。
なお、釈読にあたっては、京都学園大学の八木充氏のご教示を得た。

9 関係文献

防府市教育委員会
『平成二三年度防府市内遺跡発掘調査
概要』(二〇〇三年)

